

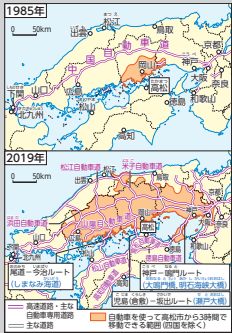
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.192-193 交通網の整備と人々の生活の変化
2. 目標
 - (1) 本州と四国を結ぶ交通網の変化を理解できる。
 - (2) 本州と四国を結ぶ三つのルートの開通によって、地域に起きた変化について考察できる。

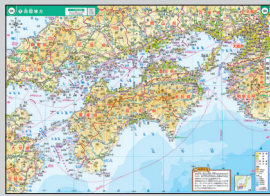
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・ 本州と四国を結ぶ本州四国連絡橋の三つのルートの位置と名称を理解している。 ・ 本州四国連絡橋の開通による、島に暮らす人々の生活の変化を理解している。
思考・判断・表現	・ 交通網の整備による、中国・四国地方と他地域との結び付きの変化について考察し、表現できる。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 瀬戸大橋の写真を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. 瀬戸大橋が造られた目的を予想し、学習課題への見通しを持つ。	 p.192 1 瀬戸大橋の場所を地図帳で確認しよう。 また、瀬戸大橋はどのような構造になっているのだろうか。 瀬戸大橋はどのような目的で造られたのだろうか。	○ 「本州と四国を結ぶ瀬戸大橋」の写真を題材にし、瀬戸大橋の構造を読み取らせながら、本時への導入を図る。 ○ 瀬戸大橋が造られた目的を予想させる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
	学習課題：本州四国連絡橋や高速道路の開通は、人々の生活をどのように変化したのだろうか。		
展開	3. 高松市から3時間で移動できる範囲の変化や、高速道路網の整備について読み取る。	  p.192 2 高松市から車で3時間で移動できる範囲は、どのように変化したのだろうか。 移動できる範囲が拡大したのはなぜだろうか。	○ 以前は、船を使った交通が中心であったことを紹介する。 ○ 高松から3時間で移動できる範囲の変化を読み取らせる。 ◆ 本州四国連絡橋や高速道路網が整備された結果、同じ時間で移動できる範囲が広がったことを理解させる。

4. 瀬戸大橋以外の本州四国連絡橋のルートを、地図帳の資料から読み取る。



地図帳 p.91-92

本州と四国を結ぶ三つのルートを確認してみよう。

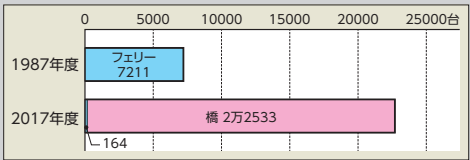


p.188 1



p.206 4

橋が開通した島々に暮らす人々の生活は、どのように変化したのだろうか。



p.193 5

グラフから読み取れることを挙げてみよう。



p.193 6



p.189 7

プラス面	マイナス面
(例) ・徳島県から高速バスで神戸市や大阪市に買い物に出かける人が増えた。 ・「阿波おどり」などを見に来る観光客が増えた。	(例) 大阪や神戸などの大都市へ買い物客が流れたことで、地方都市の消費が落ち込み、経済が衰退した。

交通網が整備されたことにより、中国・四国地方と他地域との結び付きはどのように変化したのだろうか。

6. 交通網の発達による中国・四国地方と他地域との結び付きの変化について考える。

○ 地図帳を活用し、本州と四国を結ぶ三つのルートの位置と名称を確認させる。

◆ 本州と四国を結ぶルートは、神戸－鳴門ルート、児島－坂出ルート、尾道－今治ルートの3ルートがあることを理解させ、その位置をつかませる。

○ 本州四国連絡橋が開通した、瀬戸内の島々に暮らす人々の生活の変化について、瀬戸大橋の自動車の通行量から考えさせる。

◆ フェリーによる移動が減少し、ほとんどが橋による移動になっていることを理解させる。

◆ 橋の開通によってフェリーの時間を気にせずに移動できるようになった一方で、自家用車をもたない高齢者にとっては不便になり、フェリーの運航会社も打撃を受けたことに気付かせる。

○ 学習プリントを活用し、交通網の整備による、中国・四国地方の変化について、プラス面とマイナス面を考えさせる。

◆ 人の交流が増え、観光客が増加した一方で、神戸や大阪へ買い物に出かける人々が増え、地方都市の消費が落ち込むストロー現象も起きていることに気付かせる。

7. 本時のまとめをする。

本州四国連絡橋の開通によって、島で暮らす人々の生活がどのように変化したのか、説明しよう。

8. 学習課題への振り返りの活動を行う。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

◆ 本州四国連絡橋の開通による島で暮らす人々の生活の変化について、交通手段と移動時間の変化などに着目して説明できたか確認する。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。